

『子どものほめ方叱り方』



子どものほめ方叱り方は、年齢や発達段階に応じて、関わり方を変えることが大切です。

0歳児は、安心できる関わりの中で笑顔や優しい声かけを通して「うれしいね」「できたね」と気持ちを伝えてあげたり、危険な行動は大きな声で叱るのではなく、安全な場所へ移動させながら落ちついて繰り返し伝えてあげましょう。

2歳児は自己主張が強くなる時期です。「順番を待てたね」「貸してと言えたね」と努力や思いやりを認めましょう。

叱る時は頭ごなしに否定せず「叩くと痛いよ」と相手の気持ちや望ましい行動を、伝えていきます。

4歳児は善悪の理解が深まり始めるため自分で考えて行動できたことを、認めてあげましょう。

叱る時は、子どもの話も聞き、気持ちを受け止めた上で、適切な行動を一緒に考えることが大切です。

1歳児は、自分でやりたい気持ちが育つ時期であるため、小さな成功も具体的にほめて自信につなげてあげましょう。

「スプーンを持てたね」など行動を認めることが大切です。

叱る際は短い言葉で理由を伝え、その場でわかりやすく伝えることが大切です。

3歳児は友だちとの関わりが増えるため、協力できたことや、最後まで頑張った過程をほめることが、意欲につながります。

叱る際は感情的にならず、なぜいけないのかを一緒に考え、約束を確認します。

5～6歳児は自立心や責任感が育つ時期です。努力や友だちへの思いやり、役割を果たしたことを認めることで、自己肯定感が高まります。

叱る際には、一方的に責めるのではなく、行動を振り返り、次にどうすればよいか一緒に考えられるよう援助しましょう。

子どもをほめる時は結果だけでなく、努力や過程を認め、具体的な言葉で伝えることが大切です。叱る時は感情的に否定するのではなく、理由をわかりやすく伝え望ましい行動に導くことが重要です。

発達段階に応じた関わりを心がけ、安心できる環境の中で繰り返し伝えることで子どもの自己肯定感や社会性思いやりの心が育まれ健やかな成長につながります。

